

【基本施策の目的】

学校・家庭・地域との連携・協力のもと、知・徳・体の調和のとれた人格形成を目指します。社会において自立して生きていくための基礎的な力を養います。

【基本施策の今後の優先度】

判定区分	基本施策における課題の状況及び対応策
	基本施策の指標値は、基準値前後を推移しており、今後、学校の改築、学校施設の老朽化、施設の長寿命化といった課題や、英語の小学校における教科化、プログラミング教育の実施といった課題に対応が必須である状況から、これらを着実に進めていく必要がある。しかし、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、この基本施策は、同一分野内における今後の経営資源の配分の優先度は普通と判断した。

【指標の分析】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、今後の対応
こどもが学校へ元気に通い、学校で楽しく過ごしていると思う保護者の割合	%	実績	92.7 (H24年度)	—	92.9	93.2	92.6	指標の値は、基準値前後を推移しているが、引き続き、安全で快適な学習環境の整備、教職員の指導力向上、いじめ・不登校の防止、調和のとれた人間形成などの取組を行っていく必要がある。	今後もきめ細やかな対応を着実に実施することにより、指標の数値が向上すると考える。
		目指す方向性	↗						
学校が楽しいと思うこどもの割合	%	実績	89.9	90.8	92.0	93.1	91.3	指標の値は、基準値前後を推移しているが、引き続き各種課題に取り組んでいく必要がある。	今後もきめ細やかな対応を着実に実施することにより、指標の数値が向上すると考える。
		目指す方向性	↗						

【施策推進事業の考え方】

経常事業	削減に関する具体的な考え方	以下の事業においては、購入する備品、委託事業の内容を見直し、より費用対効果を高めて実施する。  事業内容を見直し、削減を行う。  教育振興設備整備事業(小学校) 18節 備品購入費より 953千円 教育振興設備整備事業(中学校) 18節 備品購入費より 953千円 教職員研修事業 13節 委託料より 1157千円 八雲町児童交流事業 13節 委託料より 390千円
実施計画事業	資源投入の考え方	国の新学習指導要領を見据えた「平成30年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」において、学習者用コンピュータを、3クラスに1クラス分程度を整備するよう求めているが、依然として目標を満たしていないため、必要な機器整備に資源を投入する。 平成32年度から小学校で教科化される英語活動教育推進事業について、実施にあわせ資源を投入する。 児童生徒指導特別支援事業においては、支援が必要な学校に対して、資源を投入する。 コミュニティ・スクール推進事業においては、市内25校に学校運営協議会が設置され、必要な支援を行うため、資源を投入する。外国人児童生徒教育推進事業においては、日本語指導が必要な児童生徒に対し、必要な支援を行うため、資源を投入する。スクールソーシャルワーカー配置事業においては、支援を必要としている児童生徒を支援するため資源を投入する。養護教諭配置事業においては、県において養護教諭の複数配置が行われない大中規模校において、複数配置を行うため、資源を投入する。

展開方向1	名称	安全で快適な教育環境を整備します							
	目的	○子どもたちがより安全で快適に学べる教育環境を確保します。							
	所管課	教育総務課							
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
市立小・中学校の非構造部材耐震改修実施校数(累計)	校	実績	0	8	16	23	23	未施工であった小学校5校、中学校2校の改修工事を実施した。 予定通り小牧小学校と味岡中学校を除く市内23校の改修工事を実施し、平成28年度に事業完了した。	—
		目指す方向性	↗						
通学路の安全対策実施率	%	実績	20.3	95.9	98.6	98.6	98.6	平成24年度に策定した対策案(74件)に基づき、教育委員会、道路管理者、警察等において、通学路の安全対策(73件)を行った。残る1件は区画整理事業の進捗により解消する案件のため、当面の間は安全対策を着手することができない。	平成24年度の対策案に基づき実施してきたものは、一定の成果を挙げているため、今後は平成27年度に策定した小牧市通学路交通安全プログラムに基づいた通学路合同点検の結果も含めて、通学路の安全確保に向けた取組みを進めていく。
		目指す方向性	↗						
展開方向2	名称	安全でおいしい学校給食を提供します							
	目的	○安心・安全な学校給食を提供します。 ○望ましい食習慣や食生活に対する児童・生徒の理解を促進します。							
	所管課	学校給食課							
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
給食が楽しみと思う子どもの割合	%	実績	84.3	85.0	85.1	85.6	83.6	巨峰など小牧産の食材を献立に取り入れるとともに、その食材に関する情報を提供しており、概ね高い割合を推移している。	今後も献立・食育に様々な工夫を凝らし、楽しく給食を食べてもらいながら「食」に対して関心を高めてもらう。
		目指す方向性	↗						
学校給食で地元農産物を使った日数の割合	%	実績	15.1	24.8	25.8	33.3	26.0	地元農家が減少傾向にある中、今後の使用増加に向けてはその対応が困難な状況になってきている。	県では、地元産物の定義を「県内産」ということに改めており、今後はそういった視点も踏まえていきたい。
		目指す方向性	↗						

展開方向3	名称	教育力を向上し、調和のとれた人格形成を支援します							方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的	○教養と力量を兼ね備えた教員を育成します。 ○教育の今日的な課題や小牧市の特色に対応した教育を進めます。 ○いじめや不登校、非行などの問題行動の発生を防止します。 ○児童生徒のより健全な育成を推進します。 ○円滑な学級運営や児童・生徒の授業理解度の向上を図ります。 ○小・中学校における部活動の振興を図ります。 ○八雲町児童とお互いのふるさとを学び、共に理解を深め、こどもの成長を促し、将来的展望に立った次代の人づくりを目指します。 ○向学心に富みながら、経済的理由により進学が困難な生徒を支援します。 ○児童・生徒の保護者の経済的な負担を軽減します。								
所管課		学校教育課								
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度			
市内小中学校における不登校者のうち、登校できるようになった者および、よい変化があった者の割合	%	実績	46.2	27.9	41.9	37.3	30.4	不登校者のうち、良い変化があった者の割合は、平成27年度は増加し、28、29年度は減少した。児童生徒が不登校になる要因は様々であり、良い変化がみられた支援活動でも同様の効果があるとは限らない。	今後も一人ひとりの児童生徒に対して、よりきめ細やかな対応ができるよう検討していく必要がある。	
		目指す方向性	↗							
児童の授業理解度(小学国語)	%	実績	81.9 (H24年度)	79.1	77.5	75.5	79.8	どの項目も、おおむね県平均(小学国語79.1、小学数学78.5、中学国語72.0、中学数学68.4)と同程度である。調査対象となる集団が異なるため、数値のみの比較で分析をすることは難しいが、今後は、「学び合う学び」の授業の中で「何が分かったか」「何ができるようになったか」という学びの自覚を促すような振り返りの工夫を進めていきたいと考える。	今後も「学び合う学び」を中心とした授業づくりに取り組んでいく。	
		目指す方向性	↗							
児童の授業理解度(小学算数)	%	実績	82.7 (H24年度)	78.6	78.8	78.9	77.5	「何が分かったか」「何ができるようになったか」という学びの自覚を促すような振り返りの工夫を進めていきたいと考える。		
		目指す方向性	↗							
生徒の授業理解度(中学国語)	%	実績	74.0 (H24年度)	71.3	74.6	70.3	72.4			
		目指す方向性	↗							
生徒の授業理解度(中学数学)	%	実績	69.5 (H24年度)	72.7	73.1	67.6	66.9			
		目指す方向性	↗							
都市間交流事業参加児童の保護者で「交流により、こどもが成長した」と回答した割合	%	実績	90.6 (平成26年度)	/	100.0	95.8	95.8	事業の内容を適宜見直し、児童が自ら行う内容等を増やしているため、児童の成長を感じる保護者が高い割合で推移している。	今後も八雲町と協議を行いながら、魅力ある事業内容を検討していく必要がある。	
		目指す方向性	↗							